

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (中国)		一般小売店〔紙類〕（経営者）	来客数の動き	・全体の水準は低いが、観光客の動きが活発になっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・日本シリーズの開幕で多少の買い控えがあったが、地元プロ野球チームによる経済効果で景気はやや良い状況である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・イベント開催によるためか、客の経済状況が良くなったためか定かではないが、このところ来客数が増えている。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・9月の半期決算後の人事異動による名刺印刷の注文や新会社設立による印鑑注文が多い。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	単価の動き	・商店街から離れて、駅や大型商業施設などがあるオフィス街の近くに店舗を移転したため客が増えている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・先月は高気温の影響により秋物商品の動きが鈍く苦戦したが、10月に入り気温が下がったので、コートやブルゾンなどの高単価商品が好調に推移し、売上が前年をクリアする見込みである。
		スーパー（店長）	単価の動き	・野菜の高値が続き、客は単価に敏感になっているため、バラ売りの品が売れやすい。
		コンビニ（副地域ブロック長）	単価の動き	・日々の生活を支援する位置づけでコンビニが期待されており、スーパーが品ぞろえするような商品の購入が増えている。また地元プロ野球チームのリーグ優勝の効果で、市内を中心に飲料や軽食の売上が前年同時期に比べて伸長している。
		コンビニ（支店長）	単価の動き	・来客数、客単価共に前年より伸びている。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・改装開店したため来客数が増えている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新型車の受注が順調に伸びており、今後更に増えそうである。
		住関連専門店（営業担当）	来客数の動き	・初めての店じまいセールを行ったので来客数が増えているが、セール後の売上低下が危惧される。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	販売量の動き	・修学旅行生が例年と比較して多い。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（所長）	来客数の動き	・9月下旬に大型スーパーが開店し、その影響で来客数が増加している。今後も地域経済を取り巻く諸条件を左右する同店への来客数増加がショッピングセンター全体をけん引することが期待できる。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・地元プロ野球チームがリーグ優勝したことで当地域の景気が盛り上がっている。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・前年はプレミアム付商品券の影響で売上が増加したが、今年はそれがないにもかかわらず前年よりも来客数と売上が共に伸びている。またインバウンドも好調である。
		観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・来客数は少しずつ着実に改善しているが、先行予約は思うように伸びていない。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・地元プロ野球チームのリーグ優勝で客の消費マインドが向上している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・新しいイベントがあり景気がやや良くなっている。
		通信会社（販売企画担当）	販売量の動き	・新商品発売で来客数が増加している。
	通信会社（工事担当）	お客様の様子	・客の様子がやや良い。	
	通信会社（総務担当）	それ以外	・県外からの観光客による消費増加に期待できる。	
	設計事務所（経営者）	販売量の動き	・以前と比べてリフォームやリノベーションの工事に動きが出てきている。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・客は商品をすぐに購入せず、購入する場合も必要以上の余分を買うことがない。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・買い控えの客が目立つ。	
	一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・国内景気は相変わらず悪く、少しずつ前年を割っており、消費者も販売者も我慢をしている。	
	一般小売店〔食品〕（経営者）	単価の動き	・来客数や購入点数、1品単価の動きからは消費の向上は見られず、客は生活防衛に当たっている。	

百貨店（経理担当）	販売量の動き	・このところ前年の売上を下回る月が続いている。不振が続く部門が多い中、美術品、貴金属、呉服は催事が好調であったこともあり、前年を上回る実績を上げている。しかし全体では今月も前年実績を割る見込みである。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・来客数は増加しているが、婦人服の販売量は前年より減少している。カード会員優待日には全体の売上は低下しているものの、販売量が伸び客単価は前年より上昇している。その一方で優待日以外の日は厳しい状況である。
百貨店（購買担当）	お客様の様子	・今月は前年に比べて日曜日が多いので売上増を期待していたが、台風が来たり気温が下がらなかったりしたため、衣料品関係がダメージを受けている。アパレル業界もヒット商品がなく、商品づくりをかなり抑制している。宝石や時計といった高額商品に客の購買意欲が向き、食品が値上がりしている分、衣料品関係に金をかけない傾向が見受けられる。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・500万円を超える宝石が売れた以外に動きがないので、景気はまだ上向いていない。
百貨店（人事担当）	お客様の様子	・普段の買物は控え目であるが、売り出し日には前年より売上が伸びるため、客は使う必要があるときにまとめて買う傾向が見られる。
スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合店の深夜営業が夕方から夜間の来客数や惣菜の売上に影響する。客は酒をドラッグストアやディスカウントストアなど安いところで買いまわっている。
スーパー（店長）	単価の動き	・この半年は売上と客単価が前年の102%、来客数は100%で推移している。
スーパー（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べて客単価に変化はない。
スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・先月と比べて販売点数に変わりはないが、青果物の高騰で売上が伸びている。
スーパー（管理担当）	単価の動き	・客単価にあまり変動がなく、節約傾向は依然続いている。
スーパー（財務担当）	販売量の動き	・天候に恵まれたこともあるが、大手自動車メーカーの再稼働後、下請業者も含めて徐々に受注が増加しており、気分的な安心感から来客数や買上点数が回復しつつある。
スーパー（販売担当）	来客数の動き	・ここ数か月、前年比90%前後と来客数の減少が続いている。天候不順や近隣競合店の影響もあるが、客の声を聞き限りでは、インターネットでの購入頻度が増えている。
スーパー（販売担当）	単価の動き	・野菜の価格高騰により販売量が減っているが、売上に変化はない。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・朝晩の気温低下によりペットボトルや缶ジュースといったドライ飲料などの販売は下降気味であるが、HOT商材の動向が良くなってきている。
乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・新車目的の来客数が前年の75%であるが、サービス関連で前年の90%を維持している。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・10月の販売量は前年比70%と大変厳しい状況である。
その他専門店〔時計〕（経営者）	お客様の様子	・将来不安からなのか、高齢者の購入頻度が減少している。
その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	お客様の様子	・土日の客の流れを見ると景気の変動はほとんどないが、気温が下がらないので冬物衣料の動きが遅く、アパレル商材を扱っている店舗は苦戦気味である。クリスマス商戦開始日以降の動きに注視する。
高級レストラン（宴会サービス担当）	来客数の動き	・来客数は前年並みに推移している。
一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・9月の大型連休の曜日まわりが影響し、客の外出利用の機会や来店頻度の減少につながっている。鳥取県中部地震の影響もかなりあり、今後の来客数への影響が懸念される。
一般レストラン（外食事業担当）	お客様の様子	・ここ数か月、前年の91～92%であった来客数が10月は95～97%になっているものの、休日、平日共に売上が低下し、21時以降の来客数が減少している。食事利用の来客数は増えているが、アルコールを提供する頻度が低下している。

	スナック（経営者）	来客数の動き	・市や県のイベントがあっても夜の飲食業の景気は全然変わらない。地方は中小企業の景気回復がないと低迷したままで良くならない。
	都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・宿泊ではアジアからの団体客が大幅に増加し、個人客では香港からが好調である。レストランの来客数が伸びているものの単価は減少している。
	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・10～11月はオンシーズンで例年並みの予約状況である。インバウンドは地元空港に9月中旬と10月下旬に新規就航した航空便の動向に期待できる。
	旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・年末年始の需要は前年と比較して好調であるが、前年より売上、取扱量共に減少している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・地元プロ野球チームのリーグ優勝の影響と観光客が増えたことで忙しい。
	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・スマートフォンやS I M等に対する客の関心度が薄まってきている。携帯電話が普及期に入ったこともあり、低価格の訴求が一般的になっているが、それによって消費が抑えられる状況ではない。
	テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・入館者数と商品販売高は前年同月と比べて変動がない。
	ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子	・3か月前とあまり変わりなく、客の動きは順調である。
	競艇場（職員）	販売量の動き	・売上が横ばいで推移している。
	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・客の問い合わせ数が安定しており、受注もそれに比例している。
	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・景気浮揚の要因がない。
	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・新築住宅の引き合いが低調な状態が続いているが、リフォームの引き合いは増加しており、現在リフォーム件数が新築件数を上回っている。建築主は住まいに対して投資を抑える方向に向かっている。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・住宅展示場とイベント会場の来場者数が依然として低調に推移している。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・秋の観光シーズンに入って観光客数は増加しているが、地元客の来店が少ない。
	商店街（理事）	お客様の様子	・なかなか気温が下がらず、雨のため野菜価格が高騰するなど日常生活に良くない材料が多過ぎて、客はすぐ必要な商品しか購入せず、生活防衛本能が働いている。
	百貨店（営業担当）	競争相手の様子	・地域内に競合店がひしめいているが、どこも売上が前年を大きく下回る数字であり、客の消費マインドが低下している。
	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・高い気温が一因ではあるが、衣料品の売上の低迷が継続している。美術品や宝飾品といった高額商品の動きは堅調で、富裕層と中間層の購買動向の格差は拡大傾向にある。また鳥取県中部地震の発生後、来客数や売上が大きく落ち込んできている。
	百貨店（売場担当）	お客様の様子	・2～3か月前まではそれぞれ前年に近い推移で売っていたものが今は非常に苦戦しており、食品、雑貨、婦人服、紳士服とほとんどのアイテムが前年に届かない状況にある。
	百貨店（営業推進担当）	販売量の動き	・これといった要因はないが、衣料品、食料品を問わず、先月に比べて売上と来客数で苦戦している。
	百貨店（売場担当）	お客様の様子	・月初めから地元プロ野球チームの日本シリーズ優勝セールを期待する声が多く、客は月末に向けて買い控えの傾向がある。特にコートやジャケットなど高単価なものはより買い控えられている。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・依然として客の購買意欲は低下傾向にある。必要な物だけを購入する傾向が強く、安くても必要以上には購入しない。
	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・売上が前年を割っている。
	スーパー（販売担当）	お客様の様子	・鳥取県中部地震以降、来客数が減少している。客は非常時を考えて必要な商品しか購入しない傾向になっており、地震の影響で買い控えが目立つ。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は前年の100%を達成しているが、本部の施策があつての数値なので、それがなければ前年を割っていたことが予想される厳しい状況である。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・来客数と売上が減少している。

	家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数の落ち込みが顕著である。前年の90%前後が常態化しており、客の財布のひもは固くなり、足が店へ向かわない。特に冷蔵庫やエアコンなどの白物が苦戦しており、本来なら旧型処分でも値ごろ感があるはずなのに、それでも購入しない状況からも客は先行きに不安を感じている様子が見える。	
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・客の消費は必要最小限に抑えられている。	
	家電量販店（販売担当）	販売量の動き	・客の購入単価が下がっている。	
	家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・地元プロ野球チームの優勝セールが反動が出ており、販売量が落ちるとともに冷蔵庫とデジタルカメラの動きが悪い。	
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・販売量の前年割れが続いている。	
	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・原因は不明であるが、業界全体で前年と比べて少しずつ売上が低下している。	
	その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・秋になり様々なイベントが開催されているところはにぎわっているが、街で買物をする客が少ない。	
	その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（店長）	来客数の動き	・サービスエリア沿線の高速度道路の交通量が減少しているため来客数が少ない。	
	観光型ホテル（宿泊担当）	単価の動き	・客はますます安い単価に流れる傾向にある。	
	都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・宿泊の稼働は好調であるが、先の婚礼と宴会の受注は前年より低迷している。レストランの個人客の夕食利用頻度も減少している。ガソリン価格が徐々に値上がりする傾向にあり、冬支度にはまだ気温も高いので、客の消費マインドは低下している。	
	旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・東京では景気回復と言われるが、当県では全く景気回復を感じる事ができない。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・鳥取県中部地震の影響で自粛ムードが漂っており、特に夜の客が減少している。	
	通信会社（広報担当）	販売量の動き	・新商品発売の時期であるが、特に販売数が増える様子はない。	
	テーマパーク（営業担当）	来客数の動き	・秋の行楽シーズンで観光客の動く時期であるが、鳥取県中部地震の影響により、団体旅行のキャンセルなどもあり鳥取県への動きが鈍くなっている。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・客は娯楽に金を使うが、そのほかは節約傾向で店での売上は伸び悩んでいる。	
	美容室（経営者）	競争相手の様子	・値下げをしないと客が来ない状況で、忙しいのに利益が伸びない。	
	住宅販売会社（営業担当）	お客様の様子	・季節的に活発に動く時期であるが、客の動きが鈍い。	
	×	商店街（代表者）	単価の動き	・10月の暖かさで秋冬物の動きが悪く、デフレ傾向が続いている。客は必要な時に必要な商品をより安く買う傾向があり、売上が落ち込んでいる。
	×	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	来客数の動き	・鳥取県中部地震の影響で高額品の売上が落ち込んでいる。
	×	その他専門店〔海産物〕（経営者）	来客数の動き	・10月になり今までより多少客は増えているが、例年より少ない。
企業動向関連	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は順調に推移している。	
(中国)	農林水産業（従業者）	それ以外	・9月と6月を比較すると、水揚げ数量は692tの減少、水揚げ金額は1億1,300万円の増加である。減少原因は大中型まき網漁と中型まき網漁の減少で、増加原因は沖合底引き網漁、大中型まき網漁、イカ釣り漁の増加である。	
	木材木製品製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・日銀のゼロ金利政策が浸透して住宅ローンの金利が下がったため、住宅着工戸数も前年同期に比べ増えており、住宅業界としてやや良くなっている。	
	鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売単価は上がらないものの、出荷重量は増加しつつある。	
	非鉄金属製造業（業務担当）	受注価格や販売価格の動き	・金属相場が高値で推移し、IT系原料の需要も高い状況で推移している。	

	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・地元プロ野球チームのリーグ優勝のおかげで特需が発生している。そのチームからの発送に加え、スーパーや百貨店、メーカーからのチーム関連商品の発送需要がネット販売を中心に増えている。またそれに加えて電子商取引関係の荷物が堅調に伸びている。	
	金融業（融資企画担当）	取引先の様子	・地元の自動車部品メーカーでは完成車メーカーからの受注が緩やかながら増加傾向となっている。国内販売はそれほどでもないが、中国など海外販売が底堅いため、操業は残業対応をしている。	
	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上が伸び悩んでおり、商品の収益率も良くないため、製造や製品の見直し検討に入っている。	
	化学工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・セメントなどの素材製品の売上が伸びない。前年同月期に比べて素材製品は売上が減っており、回復する見込みもない。	
	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・大型受注案件の最終段階で納期確保の追い込みとなっている。このため時間外労働も多くなっているが、鉄鋼向け製品の受注は低水準の状態が続いている。	
	鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・東京オリンピックに向けた建築案件の動き出しに期待するが、まだ環境の好転が見込まれず、相変わらず荷動きは低調である。エンドユーザーへの再販価格の転嫁も進んでいない。	
	金属製品製造業（総務担当）	取引先の様子	・残業規制がかかっている得意先が下半期の受注計画を下方修正している。	
	電気機械器具製造業（総務担当）	それ以外	・為替が円高に向かう傾向にあるため、設備投資に踏み切れない状況である。また国内需要は低調に推移しながらも、一段と価格競争に拍車がかかっている。	
	輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・主要客からの受注量はほぼ内示どおりを維持している。	
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当社は主に国内向け商品を製造しているが、国内景気があまり良くなく、商品の売行きが悪く、受注量も現状維持か減少傾向である。	
	建設業（総務担当）	取引先の様子	・原油価格がやや持ち直して米国の利上げがありそうなことから、景気はやや良くなりそうであるが、まだ特に動きがない。	
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・手持ち工事で目一杯の状態が継続しており、受注を調整している状況である。	
	輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、倉庫関連貨物の荷動きが鈍い状態が続いており、国際関連貨物の荷動きも同様である。	
	通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・製造系や流通系の客をベースに情報セキュリティ商材への関心が高く、提案機会が増加している。	
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・通信機器等の売上はほぼ例年どおりで推移している一方で、通信機器設備への投資は相変わらず伸びてこない。	
	金融業（貸付担当）	取引先の様子	・取引先の話では、個人消費の落ち込みで売上は思いのほか伸びない。8月の試算表ベースで売上高は前年並みを維持している状況であり、身のまわりの景気は変わっていない。	
	不動産業（総務担当）	それ以外	・来店数や成約件数から景気はあまり変わっていない。	
	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・当初は受注量が上向きになる見込みであったが、客の事業種別に増減があったため、変動が見られない状況で推移している。	
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・小売業では景気がやや上向き傾向になっているが、建設業とサービス業では人手不足の影響が大きく、受注を確保しても対応し切れなくなる事態を懸念し、なかなか前向きな受注獲得に動けていない。	
	輸送用機械器具製造業（財務担当）	取引先の様子	・国内造船各社は1.5～2年程度の仕事量は確保しているものの、新規商談は皆無で景況感は悪化を続けている。	
	×	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売数量の減少が止まらない。
	×	化学工業（経営者）	取引先の様子	・メーカー各社の自動車向け販売不振等により、主力の高機能樹脂向け製品で増産計画見合わせの動きがあり、現時点で増産時期も未定となっている。
雇用	-	-	-	

関連 (中国)	人材派遣会社 (経営企画担当)	求職者数の動き	・登録者数のエントリー状況は比較的好調に推移しており、求人数も悪くない。売手市場なので求人の魅力をしっかり把握して就業機会を創出できるよう、人材会社として引き続き意識を高める必要がある。
	職業安定所(雇用開発担当)	周辺企業の様子	・企業から注文が入るようになり、新規学卒の入社を待つのでは注文の処理が間に合わないので、既卒の若い人を採用したいとの相談を受けるようになっている。
	職業安定所(産業雇用情報担当)	求人数の動き	・人手不足が幅広い業種に広がっており、月間有効求人倍率も前月を上回る1.76倍となっている。また正社員の有効求人倍率も1.04倍となっている。
	人材派遣会社(支店長)	求職者数の動き	・地方の人材不足は深刻で、給与を引上げてても応募が少ない状況が今夏以降から続いている。地方の魅力が直に求職者に伝わる仕組みを考えなければならない。
	人材派遣会社(支社長)	求人数の動き	・職種や業種を問わず、求人数は高いままで推移している。
	求人情報誌制作会社(広告担当)	求職者数の動き	・新卒の大学生は9割近くが内定を獲得している。企業側は新卒採用が充足しない場合、既卒者など採用者の枠を拡大している傾向がある。売手市場でも公務員志望者や就職活動を継続している既卒者が数万人はいる。企業選択の方法も新卒時と異なり、既卒者を受け付けてくれる企業を探し、業種も幅広く受ける傾向に変化している。
	職業安定所(所長)	求人数の動き	・新規求人は大幅増員のあった土産菓子製造会社の影響で製造業が対前年度比2割増となったものの、サービス業など減少した業種も多く、求人全体では横ばいとなっている。
	職業安定所(産業雇用情報担当)	求人数の動き	・新規求人数は3か月前と比べて8.5%増加している。介護関係、建設業関係での人手不足は相変わらずであるが、コンビニやスーパーでも人手不足との相談がある。
	民間職業紹介機関(職員)	求職者数の動き	・前年に比べ内定辞退者数が倍増しており、売手市場であるという現状は変わらない。
	学校[大学](就職担当)	周辺企業の様子	・求人に関して企業側に大きな変化はない。
	学校[短期大学](学生支援担当)	求人数の動き	・景気の悪化が継続する状況から回復傾向にある。
	新聞社[求人広告](担当者)	求人数の動き	・個人消費の低迷が続き、大手スーパーの撤退など、景気回復となる契機がまだ見出せない。駅前の再開発プロジェクトが発表されたが、現段階でその波及効果はない。
	新聞社[求人広告](担当者)	雇用形態の様子	・最低賃金の引上げで中小企業、特にパートを含む従業員10人前後の零細事業所がコスト増に泣いている。当地方の菓子製造業者は製品価格に転嫁することも検討しているが、値上げをした際の売上減少などの影響が怖くて踏み切れないでいる。通らざるを得ない通過点であることは分かっているが、厳しい状況下にある。
x	-	-	-